

審査委員長講評及び審査結果報告

2月27日：15:45～16:10

審査委員長を努めました吉丸でございます。

平成24年度の森林・林業技術等発表会が、多数のご参加のもと、大変有意義なものになりましたことを感謝申し上げます。

この発表会に参加するに当たり、多忙な業務の中、調査・研究、取りまとめに取り組んでいただきました発表者と共同発表者の皆様と発表に至るまで協力・指導を行っていただきました全ての関係者の皆様に敬意を表します。

とりわけ若い職員の皆さんには、こういう場で発表することは、大変だったろうと思いますが、この発表により、技術力の向上やプレゼンテーションのスキルを磨く良い機会になったのではないかと思います。

また、今回、^{こいすみ}獣害対策に係る講演を行っていただきました独立行政法人 森林総合研究所の^{とおる}小泉透様、^{おが}岡輝樹様、それに、エリートツリーに関する講演を行っていただきました^{こんどう}林木育種センターの^{ていじ}近藤禎二様に対して改めて感謝申し上げます。

次に、審査委員を代表しまして、講評と審査結果を発表させていただきます。

まず、審査委員会では、発表全体を通してですが、業務等で大変お忙しい中を地域の森林・林業に対する多様な要請や、昨年度から本格化した林業の再生に対する取り組み等が大変上手にまとめられており、大変高い評価がありました。

各々の課題については、今後、更にデータの蓄積や考察を加えていただき、より発展させて頂くことを期待いたします。

それでは、それぞれの課題につきまして、若干のコメントを申し上げた上で、最優秀賞、優秀賞を発表したいと思います。

○発表課題 1 番 「水辺林の再生に向けて」

水辺域の針葉樹人工林に間伐等を実施し、水辺に成立する広葉樹を種子源として、天然更新を促進することにより、どのように水辺林を再生していくかという、生物多様性を考える上で大変重要な事例の発表でした。

この発表は、2003年から調査が続けられており、この課題は継続して取り組んでいただきたいと思います。

調査の方法や取りまとめなどの技術は、高く評価できるものでした。

○発表課題 2 番 「めざせ業務のスリム化！」 ～森林事務所のIT化に向けて～

国有林の境界管理を中心とした業務について、GIS等のIT機器を活用することで業務の省力化及び効率化をいかに図っていくかについての発表でした。

GPSカメラによる情報の収集や境界管理にICタグを使用する等、最新の技術を業務に反映することで業務の簡素化につながる事例は、新鮮で高く評価できるものでした。

引き続き、様々な検証結果を蓄積しつつ、技術の普及と業務の簡素化に大いに期待するところであります。

○発表課題 3 番 「富士山国有林におけるニホンジカの新しい捕獲手法」 (誘引捕獲：シャープシューティング) の検討

近年、大きな問題となっているニホンジカに関する課題で、誘引による捕獲手法についての発表でした。

地元の市や研究機関等と連携し、効果的な成果を挙げられていることは高く評価ができます。

今後は、ニホンジカの個体調整の有効な手法として広く普及し、全国各地で類似の取り組みが拡大することを期待したいと思います。

○発表課題 4 番 「低コスト造林技術の開発に向けて」
～挿し木によるコンテナ苗を用いた低コスト造林技術の開発～

低コスト化を目指した育苗技術の開発及び植栽後の樹高成長などの検証についての発表でした。

関東では、ほとんど取組事例のない挿し木によるコンテナ苗の生産ができたことは非常に評価できるものでした。

今後は、樹高成長の良好なコンテナ苗の開発に向けて更なる改良を期待したいと思います。

○発表課題 5 番 「海岸クロマツ林内への樹下植栽による広葉樹導入試験」

マツ材線虫病に強い海岸林を造成するためクロマツ林床に広葉樹を植栽した試験結果等の発表でした。

大変、分かり易く取り組み内容を説明して頂きました。今後も試験地に植栽された広葉樹の成長経過を観察するとともに海岸林の機能維持・強化を図っていただくための工夫を重ねて頂くようお願いいたします。

○発表課題 6 番 「スギ花粉症対策実生苗木の家系別成長特性」
～初期成長のよいスギ家系の選抜に向けて～

毎年、春になるとスギ花粉症が全国的に問題になりますが、この課題は、少花粉スギ品種を用いた家系別の苗高調査に関する発表でした。

発表は、家系により苗木の成長に違いができることを大変分かりやすく説明して頂きました。

このような取り組みは、発表会を通じて多くの関係者へ情報発信を行っていく事は大変重要な事です。

今後、少花粉苗の生産と普及に向けて、引き続き調査研究を期待いたします。

○発表課題 7 番 「ヒノキ間伐・無間伐区の60年間を比較する」
～収穫試験地の新たな役割～

間伐実施区域と無間伐の区域のデータを比較し、間伐が林分成長に与える影響や

加齢に伴う林分成長の低下等について検証した成果の発表でした。

林分の成長と立木の質的向上に有効な間伐を考える上で、収穫試験地を改めて活用し、非常に意義のある分析であったと評価します。

また、将来的に益々増加が見込まれる高齢級林分についての森林施業を考える上でも、今後も継続した調査を実施するよう期待いたします。

○発表課題 8 番 「高尾小下沢^{こげさわ}国有林での針広混交の森づくり」

生物多様性の保全を目指した針広混交林への誘導に向けた取り組みについての発表でした。

風倒被害の跡地や間伐後の空間に広葉樹苗をユニットで植栽し、広葉樹のうっ閉と哺乳類の行動の関係を調査した内容で、感知式カメラを利用するなど様々な工夫が分かりやすく説明されていました。

今後、針広混交林化が生物多様性に及ぼす影響を調べるためには、長いスパンで見守っていく必要があると思います。

今回の研究で得られた成果を契機として、今後も様々なボランティア活動と共同で知見を集積され、生物多様性の保全に活かしてもらいたいと思います。

○発表課題 9 番 「イヌワシの生息環境を保全するための森林施業について」

大型猛禽類であるイヌワシを指標種として、森林整備を通じたイヌワシの保全と生物多様性の保全について、約 10 年間の成果をまとめて頂きました。

イヌワシに適した狩り場の創出、餌動物の生息環境の向上、ひいては、イヌワシの繁殖率の向上につながる森林施業とは何かを考えるもので、今後の生物多様性保全を目指した森林整備を考える上で大変有意義な内容でした。

イヌワシの生息域を考えると、とてもスケールの大きな研究であると思いますが、今後も継続した取り組みとこれまで得られた知見に基づく森林施業の普及に期待します。

○発表課題 10 番 「水窪^{みさくぼちよう}町で発生した土砂ダムの調査、解析事例について」

台風の降雨で深層崩壊により形成された土砂ダムの監視、調査、解析事例についての発表でした。

LPデータによる形状の解析、定点カメラ等による監視、様々な観点からのリスク評価を行った上で、対策を計画する姿勢は高く評価されます。

また、国土交通省や県・市などの関係機関と共に現地調査を実施し、調査結果を報道機関に公表することで、下流域への状況周知やリスク管理という観点から評価されます。

今後、当該事例の成果が、土砂ダムの実態解明の一助につながることを期待しております。

○発表課題 1 1 番 「小笠原諸島における外来植物対策」 ～デジタル撮影空中写真を使用した調査方法の検討～

デジタル空中写真を使用して、調査員による踏圧を抑えながらモクマオウ等の外来種の位置と本数を簡易に把握する取り組みを、大変、分かりやすく説明して頂きました。

空中写真判読の技術が発達したことにより、精度の高い調査が可能になったことは驚きでした。また、このことで、調査人工や諸経費のコストダウンにつながり、今後の外来種駆除の効率の向上に期待が出来ると思います。

今後も更なる調査・解析技術を向上と効果的な外来種駆除の実施を期待いたします。

○発表課題 1 2 番 「東日本大震災における海岸防災林の被害状況報告（2）」 ～残存クロマツの引倒し試験とその考察～

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の津波で被災したクロマツの残存木について、津波に対する抵抗力等を調査・試験した効果を分かりやすく説明して頂きました。

この調査の成果については、今後の海岸防災林の復旧に大いに貢献するものになると期待しています。

○発表課題 1 3 番 「ホーキ^{なぎ}治山運搬路開設の検討について」

大規模な崩壊地に治山工事を施工するために必要な運搬路の開設についての発表でした。

自然環境への配慮、コスト分析、運搬効率等の様々な観点から検討されている様子が理解できました。

今後も運搬路の開設について検討を進めて頂き、治山工事の効率的な施工につなげていただきますようお願いいたします。

○発表課題 14番 「70年間無間伐の高齢ヒノキ人工林における一考察」

長伐期施業の森林管理のあり方を検討する目的で、高齢級ヒノキ人工林分において間伐を計画的に実施した林分と31年生以降間伐を実施しなかった林分について成長量等を比較調査したもので、大変参考になる結果が得られたと思います。

今後も、長伐期人工林の管理手法の確立に向け、高齢級人工林の調査を継続して行っていただきますようお願いいたします。

○発表課題 15番 「^{みつまた}三俣森林共同施業団地の設定と実施経過について」

重要なテーマとなっている森林共同施業団地の設定に向けた取り組みと効果について、大変分かり易く説明して頂きました。

森林施業の実施や材の搬出に当たって民国双方に効率的な作業が実施できたことは、木材利用の観点から、また、地域の林業の振興の観点からも高く評価できるものと考えます。

今後も隣接する民有林と共同でこうした森林施業の取り組みを広げてもらうことを期待します。

○発表課題 16番 「獣害木の発電用バイオマスとしての利用について」

獣害被害木の利用について、バイオマス発電用材としてシステム販売を行った事例についての発表でした。

シカ・クマによる森林被害が顕著化している中、獣害被害木の有効活用を考える上でとても参考になる発表であったと評価します。

今後も発電用バイオマス資源の安定供給の観点から、獣害材等の供給体制の構築等、引き続き検証をしてもらいたいと考えます。

○発表課題 17番 ^{しづかわ}「渋川県産材センターの建設と搬出間伐の推進について」
～森林県ぐんまから林業県ぐんまへ～

3メートルの無選別材をA材からC材まで全量定額で買取りする県産材センターの設立に伴い、地域の木材関係者の意識が大きく変わった状況を分かり易く報告していただきました。

また、間伐を効率的に実施するため、間伐作業に携わる森林組合の作業員を主とした人材の育成・教育に力を入れているとのことであり、今後もこの取り組みを強化し、林業県群馬の実現を目指して頂きたいと思います。

○発表課題 18番 「集約化施業及び搬出間伐に向けた准フォレスターの取り組み」

搬出間伐の実施に向け、准フォレスターが中心となって、森林情報の整理、間伐計画の連携、森林所有者への同意交渉を行うことで、施業の集約化を行うとともに搬出間伐の実施体制の検討を行った事例の発表でした。

森林の現況を把握し、事業主体間の調整を図ることで一体的な間伐計画をたて、間伐推進員による所有者との交渉で集約化が実行できたことは高く評価できます。

今後も搬出間伐を中心とした持続可能な林業経営が実行できるよう、准フォレスターを中心として検討を進めていただきたいと思います。

○発表課題 19番 「台風被害跡地における「地域の森林」再生プロジェクト」

台風被害跡地の再生を地域住民や企業と協働し「再生プロジェクト」を立ち上げて実施した事例の発表でした。

再生に当たっては地域の自生種を植栽するなど森林生態系へ配慮しつつ、地域住民、企業、国有林とそれぞれが役割を分担して実施したことは、高く評価できます。

今後もこのプロジェクトを継続し、植栽した森林が成林するまで活動が続けられることを期待します。

○発表課題 20番 「金太郎のように活力と魅力ある「おやま」のために、
進めよう循環のWA」^わ（^{おやまちょう}小山町バイオマス活用推進計画）

「バイオマス利用促進基本法」に基づく^{おやまちょう}小山町の推進計画の策定と取り組み事例

についての発表でした。

地域の森林資源をバイオマスエネルギー等として循環利用するとともに、様々な取り組みを発信することで、地域の繋がり、絆を深め、町の魅力を高めていく姿勢はとても新鮮に感じました。

今後、協議会を中心としてバイオマス利用に関する地域の意識を改革し、木質バイオマス利用と林業の再生に向けて建設的に取り組んで頂きたいと思います。

○発表課題 2 1 番 「森林経営計画推進プロジェクト活動による准フォレスターの取組と育成」

栃木県における「森林経営計画作成推進プロジェクト」活動で実施した准フォレスターの育成と森林経営計画推進に向けた県全体の取り組みについての発表でした。

実行性の伴った市町村森林整備計画を策定するため、担当職員の資質向上に努め、間伐リストを作成するなど分かりやすい計画書づくりに取り組んだことは、高く評価いたします。

今後も、准フォレスターがプロジェクト活動の中核を担い、市町村森林整備計画の策定支援や森林経営計画の推進ができるよう、更なる体制の強化を期待いたします。

○発表課題 2 2 番 「^{おおくぼ}大窪湿原自然観察教育林における森林環境教育のための条件整備」

人工林の造成によって改変された湿原の再生を図り、それを自然観察教育林としての質の向上を図るための取り組みについて分かり易く説明して頂きました。

国有林が自ら自然観察教育林として、観察路の整備や景観の整備を行うことにより、地域の自然に対する理解を深めるとともに、地元昭和村の活性化に結びつける意欲的な内容でした。

今後も、地元の自治体をはじめ地域関係者と連携しながら、地域の期待に応えた国有林事業を進めていただくようお願いいたします。

○発表課題 2 3 番 「花粉対策事業（主伐事業）の歩み」
～スギ花粉の発生を抑制し、東京の林業を再生する～

東京都が取り組んでいるスギ花粉発生源対策の実施状況と課題について、分かり易く説明を頂きました。

伐採搬出量の増加による木材価格の下落や貯木場へのオーバーストックなどが懸念される中、需要に合わせた伐採搬出量の調整など深刻な状況が見てとれました。

また、主伐事業が東京都の林業再生と地域木材産業の活性化に結びつけていると
のことであり、今後とも適確な実施が望まれます。

○発表課題 2 4 番 「森林除染の課題と取り組み」
～地域住民の安全と安心を目指して～

福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質の国有林内での除染
の取り組みに関する発表でした。

国有林が所在する市町村と連携を図りながら除染の進め方等について綿密な計画
をたてて実施することは非常に大変であることが実感されました。

このような取り組みは、発表会を通じて全国へ情報発信を行っていく事は大変重
要な事です。今後は、これらの問題点を引き続き市町村と連携して着実に解決につ
なげつつ、地域住民の安全と安心を取り戻していただきたいと考えます。

○発表課題 2 5 番 「実行性のある森林計画樹立を目指して」

山間部と平坦部の市町しまちを抱え、森林への関心が異なる中で、実際に行った市町村
計画の作成や経営計画の作成の支援について、苦労していることがよく分かる内容
の発表でした。

また、今後の准フォレスター活動の先駆けとなる取り組みであると評価いたしま
す。

これからも市町しまちの担当職員をはじめ地域関係者と連携しながら林業の振興に努め
ていただきたいと思えます。

○発表課題26番 「^{あかや}赤谷プロジェクトって！知っていますか？」
～^{あかや}赤谷プロジェクトを効果的にPRするため広報戦略を作成
しました～

平成16年に発足した「^{あかや}赤谷プロジェクト」の取り組みをPRするための広報戦略についての発表でした。

地元をはじめより多くの支援を得るため様々なPR活動を実践していることは大変重要なことであり、「持続的な地域づくり」の観点からもプロジェクトの活動内容を積極的に情報発信して頂きたいと考えます。

以上、各課題についてのコメントでした。これらの成果を多くの関係者に知ってもらい、今後の業務や技術開発に活かしていただければ幸いです。

続きまして、審査結果を発表させていただきます。

賞については、最優秀賞1点、優秀賞8点の計9点を選考いたしました。

今回発表された課題は、いずれも甲乙付けがたく、審査委員の意見も分かれましたが、慎重に審査した結果、次のように決定させていただきました。

なお、入賞されました課題は、林野庁で開催されます「国有林野事業業務研究発表会」へ4課題推薦いたします。当該課題については、後日お知らせします。

それでは、最初に優秀賞の8点を発表します。

○1 課題目は、**発表課題 2番**

茨城森林管理署 堀口 剛 さん、彦田 祥子 さん
が発表されました「めざせ業務のスリム化！～森林事務所のIT化に向けて～」
です。

○2 課題目は、**発表課題 3番**

静岡森林管理署 漆道 真也 さん、佐々木 貴博 さん、神長 宏和
さん、静岡県農林技術研究所 大橋 正孝 さん
が発表されました「富士山国有林におけるニホンジカの新しい捕獲手法(誘引捕獲
：シャプシューティング)の検討」
です。

○3 課題目は、**発表課題 7番**

天竜森林管理署 平野 辰典 さん
が発表されました「ヒノキ間伐・無間伐区の60年間を比較する」～収穫試験地
の新たな役割～ です。

○4 課題目は、**発表課題 9番**

中越森林管理署 佐藤 信雄 さん、黒木 康平 さん、
新潟県イヌワシ保全研究会 柳川 雅文 さん、田中 晴子 さん
が発表されました「イヌワシの生息環境を保全するための森林施業について」
です。

○5 課題目は、**発表課題 11番**

小笠原諸島森林生態系保全センター 藤田 富二 さん、
日本森林技術協会 野口 絵美 さん
が発表されました「小笠原諸島における外来植物対策」～デジタル撮影空中写真
を使用した調査方法の検討～です。

○6 課題目は、**発表課題 18番**

茨城県 県央農林事務所 國廣 靖志 さん
が発表されました「集約化施業及び搬出間伐に向けた准フォレスターの取り組み」
です。

○7 課題目は、**発表課題 19番**

天竜森林管理署 猪俣 須恵 さん、アスモ株式会社 鈴木 芳明 さん
が発表されました「台風被害跡地における『地域の森林』再生プロジェクト」
です。

○8 課題目は、**発表課題 24番**

森林放射性物質汚染対策センター ながお みほ 長尾 美穂 さん、ふじしろ かずなり 藤代 和成 さんが発表されました「森林除染の課題と取り組み」～地域住民の安全と安心を目指して～ です。

最後に最優秀賞を発表します。

○**発表課題 15番**

あがつま 吾妻森林管理署 ひるま のぶこ 蛭間 敦子 さん、あがつま 吾妻森林組合 いりさわ とみお 入澤 富雄 さんが発表されました「三俣森林共同施業団地の設定と実施経過について」です。

受賞されました皆様おめでとうございます。

お陰様をもちまして、本年度の発表会が盛会のうちに無事終了いたしましたことを御礼申し上げ、講評及び審査結果報告といたします。